

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

菊池省三先生をお招きして研修を行いました

先週の水曜日、菊池省三先生をお招きして研修を行いました。菊池先生のプロフィールを紹介します。菊池先生は、北九州市の公立小学校で33年間教師として勤め、「ほめ言葉のシャワー」「成長ノート」「白い黒板」など、独自の実践で全国から注目された先生です。2012年には、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」をはじめ「世界一受けたい授業」「NEWS ZERO」「たけしのニッポンのミカタ」で取り上げられ、ますます注目される先生となりました。著書も多く、わたしも先生の著書等からたくさん勉強しました。実は、10年前、教育委員会に勤めていた時に太宰府市に来ていただき、小・中学校の先生方を対象に講演をしていただいたことがあります。今回は、ぜひ本校の職員で学びたいと思いお願いしたところ、幸運にも太宰府小学校にお招きすることができました。2回目のご縁ということになります。

菊池先生には、5時間目に6年3組で師範授業をしていただきました。「大人（※たいじん）とはどのような人か」というテーマで授業が進みましたが、テンポよく、子どもたちの考えを引き出しながら進む授業に、子どもたちはもちろん、参観しているわたしたちも引き込まれていきました。また、授業の中で「一人一人考えは違って当たり前。進んで自分の考えを出そう。」ということや、「教室は『公』の場である。相手を思いやる言葉・振る舞いをしよう」といったことも指導されました。



左) 6年3組での菊池先生の授業
子どもたちは真剣に、楽しそうに学習していました
右) 菊池先生の講演

児童の下校後、菊池先生に体育館で講演をしていただきました。約2時間の講演でしたが、教室で子どもたちのよさをどう見取り広げていくのか、子ども同士のつながりをどうつくっていくのか、書く力や話す力を育てる方法等、さまざまなことを学ぶことができました。

わたしたちは、子どもたちのもつ可能性をしっかりと伸ばしたいと考えています。そのためには、研修を通して学び、人間性や専門性を高めていく必要があります。日々子どもたちとかかわることで学ぶこともたくさんありますが、今回の研修のように、優れた理論・実践をお持ちの講師の先生に学ぶこともたくさんあります。学び続ける子どもを育てるために、子どもにとって身近なモデルである教師が学び続けることが大切です。菊池先生のお話に触れ、これからも研鑽を積んでいきたいと改めて思う、そんな一日になりました。

(※たいじん=年齢としての大人ではなく、思いやりにあふれ立派な立ち振る舞いができる人)